



▶皆さんの背後にあるのは遊戯室にある円柱形の絵本コーナー。



新しい園舎ができたよ
 城谷保育所が新築され、新しい園舎での保育が始まっています。4月から城谷保育所の管理運営を市から社会福祉法人せんだん会に移すことに伴い、同法人が国と市の補助金を活用して建築したものです。平屋建てで延べ床面積は1082㎡。木をふんだんに使った園舎は温もりと開放感にあふれています。
 木戸淳子所長は「各教室が遊戯室に面し、仕切りのない広い空間の中で子どもたちはのびのびと活動しています」と話していました。



※この祭りは、宝くじの社会貢献事業の一環として、宝くじの受託事業収入を財源とした「コミュニケーション助成事業」を活用。テント等の備品を購入しました。

多くの人が訪れていました。

次世代につなぐシバザクラ
 農地ののり面にシバザクラを植栽することで除草作業の負担を軽減し、健全な農地を次世代に残そうと取り組んでいる東比田地区永田集落。この事業を知ってもらおうと5月3日、猿隠高原シバザクラ祭りが開催されました。今年は6800㎡に範囲を拡大。カラフルな景観と甘い香りに誘われて、会場には



赤ちゃんの誕生を望まれるご夫婦を応援しています

市では不妊治療を受けているご夫婦の経済的な負担軽減を図るため、不妊治療費助成制度を設けています。詳しくは子ども未来課（☎23-3209）へご相談ください。

種類	対象	助成額
一般不妊治療費助成	医療保険適用の不妊検査および不妊治療、人工授精費用の一部	1年間あたり8万円を上限とし、5年間助成
特定不妊治療費助成	医療保険が適用されない体外受精および顕微授精の費用の一部	島根県等の助成決定額に、初回10万円、2回目以降5万円を上限に上乗せ助成

その上で、「不妊治療は現在、対応策が確立しています。原因

を調べれば、（年齢は別だが）生理学的に対応できます」と強調し、「赤ちゃんができないと悲観するのではなく、授かりたいと前向きに考えることが大切です」と語っていました。

講演会には当事者や家族、関係者など約80人が参加しました。

妊活は「授かりたい」という前向きな考えが大切
 妊娠活動は当事者のみでなく、社会全体で見守り育むことが大切です。市では3月24日に、妊活をテーマにした講演会「赤ちゃんの夢を追って」を総合文化ホール・アルテピアで開催しました。



▲参加者に話しかける見尾理事長。「妊娠は複雑な仕組みで奇跡としか考えられません」。

